

創立112年の歴史と伝統

～ 都立農業高校で学ぶことに誇りを ～

4月12日（月）は開校記念日でした。本校が現在に至る変遷について紹介します。

○明治42年4月12日

東京府北多摩郡立農業学校 設置認可

○大正12年4月1日

東京府に移管：東京府立府中農蚕学校と改称

○昭和23年4月1日

東京都立新制農業高等学校と改称。農業・園芸・農産製造・家庭の各課程を設置。

○昭和25年1月26日

東京都立農業高等学校と改称

○その後、学科改編等を経て現在の都市園芸科、緑地計画科、食品科学科、服飾科、食物科の5学科を設置。

本校の校章



「高」の字を包んでいるのは「蚕(かいこ)」の「繭(まゆ)」です。その「繭」を包んでいるのが「稲穂」です。昭和30年代まで「養蚕(ようさん)」という科目があり、蚕を飼ってその繭から生糸(きいと)を作る授業を行っていました。蚕の餌である桑の畑も約7,500平方メートルあり、大きな規模で蚕を飼っていました。また、昭和30年代まで、稲を栽培していました。

第50回府中市民桜まつり「記念植樹」

4月4日（日）、府中市民公園で「第50回府中市民桜まつり」開催に伴う記念植樹式が実施されました。植樹式では、3年前に緑地計画科の生徒が「桜通り」の桜の枝を穂木として接ぎ木をした苗木（品種：ソメイヨシノ）を、緑地計画科2年の5名の生徒が植樹をしました。

府中市の景観保全・景観維持に向けた活動は、府中市から大きな期待が寄せられています。日頃の学習活動の成果が地域社会に貢献していることを誇りに思ってください。来春にはソメイヨシノの綺麗な花を見ることができます。



植樹の様子は、府中市のホームページに2つの動画が公開されています。

トップ画面「お知らせ一覧」⇒「2021年4月19日【動画公開中】第50回府中市民桜まつり」⇒「事前植樹の様子」（2分54秒）・「記念植樹式の様子」（1分48秒）